包括的な学校改善の視点：教員の資質能力の向上

教職員の資質能力の向上を目指した学校モデル

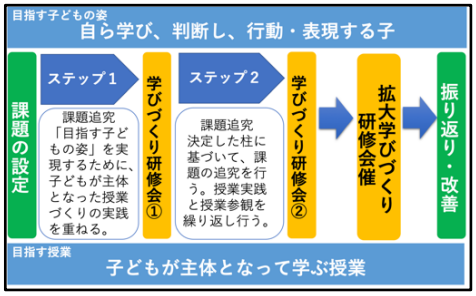
中核校	知内町立知内小学校	指定校	知内町立涌元小学校、知内町立知内中学校 福島町立福島小学校

■　構築した学校モデルの具体

○　教師の学びのコミュニティとなる自律した校内研修

・教師が校内研修を自分事として捉え、主体的に取り組むために、一人一人が目指す子ども像の実現に向けた授業改善の視点を設定し、取り組む。

・学校を教師の学び合いのコミュニティにするために、30 分程度の研修を月に複数回実施し、学校組織で働く中で、教師自身の成長を実感できるよう内容を工夫する。



【研修の流れ】

【模擬授業の様子】

○　教職員同士のプラスの相互作用を促す校内文化の醸成

・教職員の協働性を高めるために、校内研修や校務分掌業務において、教職員同士の関わり合いを軸に、学び合いや対話を通じて課題を解決する。

・教職員同士の対話の活性化を図るために、短時間授業交流、模擬授業、学校課題に応じたテーマ別研修等に取り組むことで、対話の必要性を高める。

○　協働的な校内組織の構築

・学校教育目標の具現化を目指す自律的な分掌組織となるよう、分掌主任等でワーキンググループを組織し、企画会議を行う。

・ワーキンググループにおいては、ミドルリーダーの養成を図ることができるよう、目的等に焦点化したり、取組を多面的に捉えたりしながら検討を行う。

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

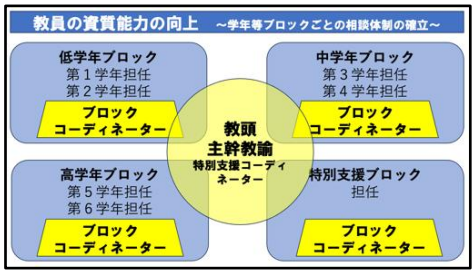
〔管理職の取組〕

・教職員に考えをアウトプットすることの重要性を伝えるため、年度初めの経営方針の説明において、インプット型の一方的な説明で終わるのではなく、方針を受けて教職員それぞれが取組の具体を考え交流する場を設定するとともに、検証改善サイクルを確立し、方針に示された学校の目指す姿の具体的な取組を定期的に振り返る場を設け、学校全体で共有した。

・週に１回程度、授業改善やＩＣＴの効果的な活用をはじめ、学級経営、生徒指導、保護者対応等、多岐にわたるテーマで研修を実施するとともに、研修の最後に管理職から指導を含むフィードバックを行うことで、資質能力の向上を促進した。

〔教員等の取組〕

・隣接した学年でブロックを編成し、複数体制で学年・学級経営を図ることができるようにするとともに、各ブロックに主幹教諭や教務主任、専科教員を「ブロックコーディネーター」として位置付け、相談できるようにしたり、ブロックコーディネーターが授業を行いモデルを示したりするなど、組織的に指導力が向上できるようにした。



【指導力の向上を図る組織】

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・公開研究会を実施し、６学級の授業公開を行うとともに、研究協議に加えて、授業者と登壇者によるシンポジウムや本校のこれまでの取組について発表・交流した。

・地域協議会において、取組事例を共有するとともに、指定校における取組の具体について協議し、指定校の実践に還元した。